

平成 30 年度学部卒 鶴岡千穂さん



『興味があれば苦手も挽回できる』

Q1： この学科に入学した理由は何ですか？

中学生の頃に見た星空に魅了されて宇宙に興味を持ちました。また高校 1 年のときにはヒッグス粒子のニュースを見て素粒子にも興味を持ち、両者が密接な関係にあると聞いて「もっと知りたい」と思いました。高校当時の担任・副担任が「学部から宇宙・素粒子を学べる」ということで紹介してくださったのが東邦大学でした。

入学後、実際に最先端の研究に携わることができる卒業研究は 4 年生の 1 年間のみです。その期間で出来ることには限りがあり、満足できないと感じ大学院にも進学しました。

Q2： 現在はどのような研究をしていますか？

素粒子の一種であるタウニュートリノを検出・識別するための検出器、コンパクトエマルジョンスペクトロメーターの開発を行っています。検出器の性能を評価するための実験を行ったり、そのデータの解析まで一貫して取り組んでいます。卒業後は研究の経験を活かして技術系の仕事に携わりたいと思います。



Q3： 在学中、印象に残っている授業や研究はありますか？

物理学実験Ⅲです。実験演習は 1 年生から受講しますが、この科目はより最先端の研究に近い、本格的なテーマが多くなっています。学期終わりには発表会もあり、卒業研究を意識するきっかけにもなります。私自身、この授業が卒業研究で研究テーマを決めるときの決め手の 1 つになりました。

Q4： 最後に、後輩に向けて一言

東邦大学、特に物理学科の魅力は授業や研究で困ったときにすぐに教員の先生方や先輩に相談できることです。研究で行き詰った時は 1 人でずっと悩まず、相談することで解決することも多いです。私自身、高校時代は物理の成績はあまり良くありませんし、とても苦手でした。それでも、どうしても宇宙・素粒子を学びたい気持ちで物理学科を選びました。今では学生生活も研究生活も充実していて楽しいです。やりたいことを前に「この科目苦手だし向かない...」と躊躇しないで踏み出してみることも大切だと思います。

